独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

— 第5期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務実績等の評価 —

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

目次

1. 外部評価委員会評価結果	1
2. 外部評価委員会評価報告	
総会	2
博物館部会	4
研究所・センター部会	5
3. 外部評価委員会委員名簿	
外部評価委員会全体	6
博物館部会	7
研究所・センター部会	7

独立行政法人国立文化財機構第5期中期目標の期間の終了時に見込まれる
中期目標の期間における業務実績等の自己点検評価に対する外部評価委員会評価結果

中期目標	年度評価				中期目標 期間 見込評価	部会評価		総会評価		業務の まとめり
	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度						
I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項										
1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	B	B	B	B	B	B		B		博物館
						小松	B	名見耶	B	
						出川	B	小笠原	B	
						大久保	B	小松	B	
						笠原	A	藤井	B	
平井	B									
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	A	B	A	A	A	A		A		セ 研 所 ・ タ ー ・
						藤井	A	名見耶	A	
						児島	A	小笠原	A	
						木下	A	小松	A	
						栗本	A	藤井	A	
福岡	A									
II. 業務運営の効率化に関する事項										
1. 業務改善の取組 2. 業務の電子化 3. 予算執行の効率化	B	B	B	B	B	—	—	B		法人 共 通
								名見耶	B	
								小笠原	B	
								小松	B	
								藤井	B	
III. 財務内容の改善に関する事項										
1. 自己収入拡大への取組 2. 固定的経費の節減 3. 決算情報・セグメント情報の充実等 4. 保有資産の処分	B	B	A	B	B	—	—	B		法人 共 通
								名見耶	B	
								小笠原	B	
								小松	B	
								藤井	B	
IV. その他業務運営に関する事項										
1. 内部統制 2. その他(自己評価・情報セキュリティ対策) 3. 施設整備に関する計画 4. 人事に関する計画	B	B	B	B	B	—	—	B		法人 共 通
								名見耶	B	
								小笠原	B	
								小松	B	
								藤井	B	

※1 令和3～5年度評価は、大臣評価を記載。令和6年度評価は、外部評価委員会総会委員の評価を踏まえて、自己評価を記載。

※2 中期目標期間見込評価は、令和3年度～令和6年度の単年度評価結果に基づいた外部評価委員会総会委員の評価を踏まえて、自己評価を記載。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員
第5期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務実績等の評価書
(総会)

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置					
1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信					
全体評価	3年度	4年度	5年度	6年度	見込評価
	B	B	B	B	B
I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置					
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究・協力事業等の実施					
全体評価	3年度	4年度	5年度	6年度	見込評価
	A	B	A	A	A
II 業務運営の効率化に関する事項					
全体評価	3年度	4年度	5年度	6年度	見込評価
	B	B	B	B	B
III 財務内容の改善に関する事項					
全体評価	3年度	4年度	5年度	6年度	見込評価
	B	B	A	B	B
IV その他業務運営に関する事項					
全体評価	3年度	4年度	5年度	6年度	見込評価
	B	B	B	B	B
※令和3年度～5年度の評価は文部科学大臣評価、令和6年度の評価は外部評価委員(総会)の評価、コメントを踏まえた自己評価である。					

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置					
1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信					
自己点検評価 B			委員評価 B		
委員名	委員評価	コメント			
名児耶委員長	B	—			
小笠原委員	B	—			
小松委員	B	各館のコンセプトに沿った作品の収集、保存、修復などが順調におこなわれている。また、文化財を活用した展覧会が盛んに行われている点も評価できる。			
藤井委員	B	—			
I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置					
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究・協力事業等の実施					
自己点検評価 A			委員評価 A		
委員名	委員評価	コメント			
名児耶委員長	A	—			
小笠原委員	A	—			
小松委員	A	国内のみならず、海外の文化遺産の保護を目的とした活動が大きな成果を上げている。我が国の保存科学分野は高い水準を保っており、今後も世界各地において調査研究、協力事業等が積極的に行われるよう期待したい。			
藤井委員	A	—			

II 業務運営の効率化に関する事項		
自己点検評価 B 委員評価 B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶委員長	B	—
小笠原委員	B	—
小松委員	B	各博物館、センター、研究所とも、マンパワーや予算などの制約があるなかで、効率の良い業務運営を目指して一定の成果をあげている。
藤井委員	B	—
III 財務内容の改善に関する事項		
自己点検評価 B 委員評価 B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶委員長	B	—
小笠原委員	B	—
小松委員	B	各館とも入場料収入が漸くコロナ禍以前の水準に戻りつつあるように見える。今後は、さらなる外部資金の導入や施設利用料金の増額などをはかっていく必要があるだろう。
藤井委員	B	収蔵庫の空調など、所蔵する文化財の保管、維持にかかわる基本的な費用が、国から保証されていないことは危機的に思う。日本の特質、歴史を直接的に表現する文化財を大切にしないことは、危険である。
IV その他業務運営に関する事項		
自己点検評価 B 委員評価 B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶委員長	B	—
小笠原委員	B	—
小松委員	B	全体として業務が円滑に進み、期待通りの活動が行われていると評価できる。各館の状況をみると、やはり海外からの観覧者数が想定以上の伸びをみせており、今後は、グローバル化に向けてさらなる努力が必要になっていくだろう。
藤井委員	B	—

(参考)

【中期目標期間の最終年度に当該期間終了前に見込まれる業務実績に対する総合評価】

評価は以下の評定区分を使用している。

S : 所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
A : 所期の目標を上回る成果が得られている
B : 所期の目標を達成している※
C : 所期の目標を下回っており、改善を要する
D : 所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※B評定が標準となる

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員

第5期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務実績等の評価書
(博物館部会)

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信					
全体評価	3年度	4年度	5年度	6年度	見込評価
	B	B	B	B	B
※令和3年度～5年度の評価は文部科学大臣評価、令和6年度の評価は外部評価委員(博物館部会)の評価、コメントを踏まえた自己評価である。					

自己点検評価 B 部会評価 B

外部評価委員(研究所・センター部会)による見込評価に関する評価及びコメント		
委員名	評価	コメント
小松 部会長	B	<p>機構の5館1センター、いずれもそれぞれの特性を活かし、高い業務の水準を保っていると評価することができる。</p> <p>日本全体をみると、地方自治体が運営する展示施設は、いずれも資金面、人材面などで厳しい状況にあるところから、今後は、文化財機構の各施設が指導的な立場に立ち、さまざまな方策をもって地方の展示施設を支えていく必要があるだろう。</p> <p>また、令和2年度から4年度にかけては、コロナの流行という未曾有の事態に直面して、各施設とも苦闘を余儀なくされたわけだが、令和5年度以降、ようやく以前の賑わいを取り戻しつつあるようにみえる。各館からの報告では、インバウンドの観客数が大幅に増えている状況があり、今後、海外からの来観者対応にさらに注力していく必要があると思われる。</p>
出川 副部会長	B	<p>期間中のCovid19禍に臨機応変に対応され、中期目標を達成しています。顕著な業績あげた展覧会も多数実施され、また作品の研究・収集・修復活動に着実な成果をだされています。国際学術交流やインバウンドへの配慮など日本美術の国際的な発信にも貢献され、博物館教育など将来を見据えた博物館活動も着実に実施されています。</p>
大久保 委員	B	—
笠原委員	A	<p>欧州各国やアジア諸国の国立美術館と比較して、恥ずかしいくらい国からの予算措置が少ないなかで、調査研究など、国立博物館としてやるべき仕事をきちんとしている。今後早急に予算を諸外国並みにして、来館者数と入場料収入およびグッズ収入を目当てに開催するメディアとの共催展覧会はやめるべきである。</p>
平井委員	B	—

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員

第5期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務実績等の評価書

(研究所・センター部会)

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施					
全体評価	3年度	4年度	5年度	6年度	見込評価
	A	B	A	A	A

※令和3年度～5年度の評価は文部科学大臣評価、令和6年度の評価は外部評価委員(研究所・センター部会)の評価、コメントを踏まえた自己評価である。

自己点検評価 A 部会評価 A

外部評価委員(研究所・センター部会)による見込評価に関する評価及びコメント		
委員名	評価	コメント
藤井 部会長	A	全体に着実に、的確に事業が推進されたと見てよいだろう。特に防災・災害対策において、着実な成果を出してきたことは特筆されよう。また、各種の情報がデジタル化によって大規模なデータベースが建設されて公開が進み、日本に関する基礎的情報が広く共有されるようになってきた。今後の大きな成果に期待したい。
児島 副部会長	A	他の委員の方々と同じく意見が一致してA評価となったことから全体評価としてもAが妥当である。パンデミックは社会にも研究所の活動にも大きな変化を余儀なくしたが、それを契機とする発想の転換が今期に新たな成果をもたらす結果となったのではないだろうか。みなさまの努力のたまものと評価する。
木下委員	A	東文研・奈文研ともにそれぞれの責務に対応した基礎的・探求的な調査研究を着実に進め、データベースの充実と公開、刊行物の刊行、展示施設の活用、国際協力を通してナショナルセンターとしての役割をよく果たしている。文化財防災センターが構築してきた全国的なレスキューの体制が機能し始めたことも高く評価できる。
栗本委員	A	第5期中期目標期間においては、調査・研究をはじめ、各方面への相談業務、国内外の人材育成、成果の発信、文化財防災など、多岐にわたる事業が活発に展開されており、確実な実績が認められることから、高く評価できる。 次期中期目標の策定にあたっては、急速に進展するデジタル技術への対応や地球温暖化対策といった社会的背景も踏まえ、国として果たすべき役割を意識した計画立案がなされることを期待します。
福岡委員	A	各機関とも、そのミッションに即して、高いレベルで調査研究活動やその成果の公開・活用を進めている。特に以下の点が所期の目標を上回っており、高く評価できる。①能登半島地震において、これまで築いてきた地域防災体制に基づき、全国の機関・関係者の力を結集し、文化財レスキュー事業および文化財ドクター派遣事業を進めたこと、②奈良県内の社寺建築の悉皆調査を始め、高い精度で基盤的な調査を進め、日本の文化財研究を大きく進展させる基礎データを充実させたこと、③リアルタイムフォトグラメトリ手法の確立や、3D技術を活用した記録など、文化財の調査研究に新しい技術を積極的に活用する道を開いたこと、④これまでに蓄積されてきた膨大な文化財情報を、デジタル技術を援用しながら広く公開することに努め、文化財の調査研究および理解促進に大きく貢献していること、④カンボジアでの遺跡修復やアジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する研究フォーラムでの若手研究者育成など、日本が培ってきた技術や経験を生かした国際協働が進められていること。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	名見耶 明	(筆の里工房副館長)
副委員長	小松 大秀	(公益財団法人永青文庫館長)
委員	大久保 純一	(町田市立国際版画美術館長)
委員	小笠原 直	(監査法人アヴァンティア法人代表 CEO 代表社員 公認会計士)
委員	笠原 美智子	(長野県立美術館館長)
委員	木下 尚子	(熊本大学名誉教授)
委員	栗本 康司	(秋田県立大学木材高度加工研究所教授)
委員	児島 薫	(実践女子大学文学部美学美術史学科教授)
委員	出川 哲朗	(大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長、大阪大学招聘教授)
委員	平井 宏典	(和光大学経済経営学部経営学科教授)
委員	福岡 正太	(国立民族学博物館副館長)
委員	藤井 恵介	(東京大学名誉教授)

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会 博物館部会

- 部会長 小 松 大 秀 (永青文庫館長)
- 副部会長 出 川 哲 朗 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長、大阪大学招聘教授)
- 委員 大久保 純 一 (町田市立国際版画美術館長)
- 委員 笠 原 美 智 子 (長野県立美術館館長)
- 委員 平 井 宏 典 (和光大学経済経営学部経営学科教授)

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会 研究所・センター部会

- 部会長 藤 井 恵 介 (東京大学名誉教授)
- 副部会長 児 島 薫 (実践女子大学文学部美学美術史学科教授)
- 委員 木 下 尚 子 (熊本大学名誉教授)
- 委員 栗 本 康 司 (秋田県立大学木材高度加工研究所教授)
- 委員 福 岡 正 太 (国立民族学博物館副館長)